

令和 7 年度

第 7 回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和 7 年 7 月 1 0 日 (木)
開会 1 4 時 2 5 分 閉会 1 5 時 0 7 分

場 所 教育委員会室

令和 7 年度
第 7 回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 報 告

- ① 「おおいたくらふとりんく」の開催について
- ② 「大分県グローバル人材育成推進プラン」の在り方について
- ③ 通学区域制度検証委員会による答申を踏まえた今後の方向性について
- ④ 高校入試改革について

【内 容】

1 出席者

教育長	山 田 雅 文
委 員（教育長職務代理者）	高 橋 幹 雄
委 員	鈴 木 恵 代
委 員	岩 武 茂 代
委 員	岡 田 豊 弘
委 員	藤 田 敦
事務局	
理事兼教育次長	大 和 孝 司
教育次長	山 田 誠 司
教育次長	木 村 典 之
高校教育課長	小 野 和 正
教育改革・企画課 総務企画監	和 田 博 幸
教育改革・企画課 課長補佐（総括）	多 嶋 田 智
教育改革・企画課 主査	穴 見 ひ と み

2 傍聴人

10 名

開会・点呼

(山田教育長)

委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

(山田教育長)

ただ今から令和7年度第7回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(山田教育長)

議事録の署名については、藤田委員にお願いします。

会期の決定

(山田教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。
会議の終了は15時00分を予定していますので、よろしくお願いします。

議 事

【報 告】

① 「おおいたくらふとりんく」の開催について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

まず、報告第1号「「おおいたくらふとりんく」の開催について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「おおいたくらふとりんく」の取組について説明します。本年度の新たな取組です。

概要としては、専門高校、専門学科の魅力発信として、主に県内の小学生または中学生を対象とした「体験型のキャリア教育イベント」として、各学科の専門性や特色を活かした「お仕事体験ワークショップ」やステージ発表、交流コーナ

一などの多様なプログラムを実施するものです。

目的としては、小中学生などの早い段階から、専門高校での学びや取組を、まずは楽しみながら体験してもらうこととしていますが、それだけではなく、専門高校の学びでどんな力が身につくのか、何ができるようになるのか、そして、学校で学んだことが、いかに社会や将来の職業に結びついているのか、といった観点で理解促進を図るものです。

主催する高校生にとっても、自らワークショップ等の企画・運営に携わることを通して、専門教科での学びと産業社会との関係を改めて捉え直す機会となり、対象となる小中学生にとっては、専門学科の学びに触れることで、将来のキャリア形成や進路選択に向けた原体験となることを期待しています。

日時は、記載のとおり9月23日、秋分の日で、会場は大分駅近くのホルトホール大分を予定しています。タイムスケジュール、内容の案は記載のとおりです。

現在、専門学科等設置校19校に参加要請を行なっておりまして、ワークショップ等の準備を進めているところです。

また、有志生徒による実行委員会を編成して、企画・準備から当日の運営まで、生徒が当事者意識を持って、そして、生徒が主体となって作り上げるイベントになるように考えているところです。

本イベントの広報については、今月配布予定の「教育だより おおいた」への掲載、及び告知用のチラシを作成し、どちらも県内の小学生ひとりひとりに届くように手配を進めています。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

今まで行っていたイベントとは別で開催することになるのですか。

(小野高校教育課長)

すでに専門学科の生徒の成果披露場として産業教育フェアがありますが、これとは別に小中学生への普及を含めて行っていきたいと考えています。

(鈴木委員)

2学期は行事が多く、先生方も大変忙しいような気がします。負担感などは大丈夫ですか。

(小野高校教育課長)

先ほど言ったように、生徒については実行委員会を作っております。学校でブースを出したりしますので、各学校でも役割分担ができるように考えていきます。

(鈴木委員)

様々な活動や競技会など、この時期のスケジュールは相当忙しくなると思います。学校全体としても就職・進学の手続きが始まる頃なので、できればそのあたりの調整をして、皆さんが参加できて、成果が見せられるようになればよいと思います。

(小野高校教育課長)

産業教育フェアを毎年開催して、かなり生徒も力を入れています、なかなか専門学科の魅力や良さを伝えきれていないということもあり、2日間に分けて、という考えもあります。今回は9月になったのですが、次年度は前倒しして、少し時期をあけて開催したいと考えています。

(高橋委員)

生徒が主体となって行うイベントですね。担当の先生方はどこまで関与しますか。

(小野高校教育課長)

学校で企画・準備する場合は、もちろん先生が学校の中で指導することになりますが、当日の全体会は生徒が主体的に行っていきます。

(高橋委員)

ワークショップの中には企業も入ってきますか。

(小野高校教育課長)

はい。まだ具体的に詰めてはいないのですが、ぜひ企業の方にも参加いただいて、自分達の学びが社会とつながっているというところを強調していきたいと考えています。

(高橋委員)

このワークショップをすることによって、企業との連携が一層深まってほしいと思っています。今まで産業教育フェアのような成果報告会はある機会がありましたが、実質的に技術系の専門職の学校と県内の企業が結びつくきっかけがなかったので、意見交換などができれば、企業との連携が進んでいくのではないかと考えています。そういったところは先生がサポートする形で入ってくれると嬉しいのですが、できるだけ生徒が自主的に活動できるようなイベントにしてもらいたいなと思っています。私は大賛成です。ぜひ、生徒に頑張るよう伝えてください。

(藤田委員)

小学生にアンケートをとる予定はありますか。

(小野高校教育課長)

はい。ぜひ参加者の声を聞きたいと思います。

② 「大分県グローバル人材育成推進プラン」の在り方について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第2号「大分県グローバル人材育成推進プラン」の在り方について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「大分県グローバル人材育成推進プラン」の在り方について報告します。

県教育委員会では、平成26年に大分県グローバル人材育成推進プランを策定し、そのプランに基づき、大分の子どもたちが世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働する取組、あるいは大分県や日本の理解を深め、また英語力の向上を図る取組を進めてきました。

大分県グローバル人材育成推進プランの第3ステージが令和6年度に終了したということ、そして一昨年度に大分県長期総合計画が、昨年度に大分県長期教育計画が策定されたことを受けて、これまでの取組の成果や課題を踏まえ、本県におけるグローバル人材の育成に向けた次の指針を打ち出す時期にあると考えています。

これまでの成果としては、生徒の学習習慣実態調査等から、英語学習に対する意欲の上昇が見られたこと、県内に在住する留学生との交流の機会が増えたという点が挙げられます。

一方で、世界や社会の課題解決に向け、自ら進んで取組を始めようとする意識・意欲や、英語をツールとしたコミュニケーション能力の向上、また、場に応じて英語を運用する機会の拡充などが課題として挙げられます。

今後の方針としては、現プランの第3ステージを今年度1年間延長し、この間に次期プランの策定に向けた外部有識者を入れた会議を開催し、本年度末までに「大分県グローバル人材育成推進プラン2026」という形で策定及び公表したいと考えています。

プラン策定において特に重点となるポイントは、生徒の挑戦意欲を喚起する取組の拡充と、小中高の校種間の接続を意識した英語4技能の強化です。それに基づいて、例えば、グローバルリーダー育成塾で英語をより多く使用したディスカッションを行う、各学校で国際留学生や海外の高校との交流を促進できるように県としても支援する、授業においてスピーキングなど言語活動の充実を図る、など英語4技能の育成に努めます。

プランの策定会議委員については記載のとおりです。グローバルに展開する企業の代表、あるいは英語教育に関する学識者、校種間の接続という観点から市町

村教育委員会の代表などの有識者から意見をいただきたいと考えています。

今後は、10月までを目途に2回の策定会議を持ち、そこで出された意見を踏まえ、本年度中にプランを策定する流れで進めます。

以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(藤田委員)

このプランは高校だけでなく、義務教育にも関わるものですか。

(小野高校教育課長)

はい。そのとおりです。

(藤田委員)

第3ステージまでの成果と課題として、白丸は成果、黒丸は課題として挙げられていますが、この成果と課題を評価する指標は具体的にどのようなものですか。

(小野高校教育課長)

1つは定性的なものですが、先ほど申しました学習習慣実態調査というものを高校では実施し、その調査の意識・意欲等が分かる項目から見取ります。それから、高校では英検準2級、中学校では英検3級といった実際の英語の検定試験の結果や、国際基準のCEFR（セファール）でどこまで到達したかを実際の数値から測定しています。

(高橋委員)

コミュニケーション能力の運用機会の拡充が課題として挙げられています。これまでも海外の人との交流を行ってきましたが、どのくらいの成果が出ているかなどの具体的な例がありますか。

(小野高校教育課長)

スピーキングなど、生徒のアウトプットに関わるのが、英語を使った対話の中で非常に大きいと思います。そのあたりは学校の中で、スピーキングやライティングのパフォーマンステストを活用して、生徒の英語力を見取り、英語力がどのくらい伸びたかを見ていきます。現在全国の平均値に近づいているところであり、一つの指標・目標としています。英語力の向上は確かに見られています。

(高橋委員)

日本人の良いところか悪いところか分かりませんが、英語を話せてもコミュニケーション能力が低く、話そうとしないということがあり、話せるが話そうと

しないことが英語力の低下につながっていると思われるので、ボディランゲージも使いながら、色々な思いで話せるような英語力をつけていただきたいと思います。ぜひ引き続きお願いします。

(小野高校教育課長)

はい。ありがとうございます

(岩武委員)

これからグローバル人材育成推進プランを考える上で、子どもたちにどういう力をつけるのか、将来どういう人材の育成を目指していくのかというところがまず明確になっていくと思います。この成果と課題に出ていない、私も最近気になっていることですが、そもそも、子どもたちは、自分の周りの社会や世界に対する関心が低く、色々なことを知らないのではないかと思います。

今日、企業の方と話をしましたが、今の子どもは新聞をあまり読まない、それから若い人は家にテレビがないところも結構多いということで、テレビを見ないということです。インターネットから知識をとるようですが、インターネットから取る知識は、自分自身を取りたいと思うフィルターがもうすでにあり、なかなか広い範囲での知識の吸収ができていないと思います。

そのため、これから考える上で、まずは子どもたちが社会や世界をきちんと知る、知識や理解、やはり国際理解という基本的なものが必要になってくると思います。そして、それがあの上で課題解決ということがあると思います。

まずはそのようなことに関する実態調査や対策を考えることが必要であると思います。

(小野高校教育課長)

まさにご意見のとおりで、今グローバルリーダー育成塾で、世界の情勢についての講演をしていただいておりますが、そのことを知らなかったという声が非常に多いです。それに対しては、生徒たちが様々な人と交流できるような場も必要だと思います。まず、国際留学生や大学の先生から情報を得られるような様々な場を設定したいと思います。

また、グローバル人材というのは語学力だけではなく、様々な国際理解の力を含めた総合的な力が必要になると思います。この会議の場で意見をいただきながら、プランを作っていきたいと思います。

(高橋委員)

今のことに関連して、例えば「持続可能な取組」などを英語で討議するような場というのはありますか。例えば、脱炭素や地球温暖化の問題というのは今、全世界の高校生がすごく関心がある事項です。

(小野高校教育課長)

はい。グローバルリーダー育成塾だけでなく、APUの学生と高校生が1泊2日でフィールドワークする場もあります。そのような場では、地元の視点からも世界を見てディスカッションをします。

一方で、全体の生徒が取り組むものにはなっていないため、授業の中で取り組むことも必要であると考えます。

(高橋委員)

世界に共通する話題で取り組むこともいいと思います。

(藤田委員)

確かにニュース離れ、テレビ離れ、新聞離れは大学生にも当てはまります。新聞とかテレビは、受動的に情報が入ってくるというイメージですが、それがないというのが今、子どもたちの現状ではないかと思います。

一方で、学校には一人一台端末があり、子どもたちは必ず毎日1回は開くと思います。自分から能動的に関わっていくことは大事なことだと思いますが、1日1回開いた時に必ず、例えば今日の出来事という内容が配信されるといった、端末を活用した情報の受け取り方もあると思います。

③ 通学区域制度検証委員会による答申を踏まえた今後の方向性について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第3号「通学区域制度検証委員会による答申を踏まえた今後の方向性について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「通学区域制度検証委員会による答申を踏まえた今後の方向性について」報告します。資料の3ページをご覧ください。

この報告は、5月30日に提出された通学区域制度検証委員会からの答申を踏まえ、県教育委員会で今後の方向性を整理し、示したものです。

通学区域制度検証委員会による答申では、「通学区域制度の在り方に関すること」と「地域の高校の魅力づくり及び教育の質の担保に関すること」の2点について示されていました。

まず、1点目の通学区域制度に関することについて、答申では、生徒の主体的な進路選択を促すという趣旨を生かして全県一区をベースとした制度としつつ、一方で、少子化が進む地域の活性化の観点から、一部の選抜方法で通学区域を設定する制度設計も考えられるとの提案がありました。そこで、国で検討がスタートした公立高校の併願制について、本県の実態に応じて、地域の生徒が地域の高

校を志願しやすくなるような形を検討し、「複数校志願制度」として、令和8年度入試から導入することとしました。この詳細は、報告第4号にて説明します。

続いて、2点目の「魅力づくり」「教育の質の担保」についてです。ポイントを絞って説明します。

(1)の今後の県立高校の在り方については、少子化の急速な進展、中学生の進路選択の多様化、高校の授業料の無償化などの社会変化を踏まえて、今後の見通しを可能な限り早く示すようにとの答申を受けてのものです。県教育委員会では、令和6年3月に今後10年の見通しを示す「大分県立高等学校未来創生ビジョン」を策定し、5年を目途に内容の見直しを必要に応じて検討することとしております。先ほど申し上げた社会状況の変化や、文部科学省によって中間まとめが行われると報道されている「グランドデザイン」の内容等を踏まえ、早速、教育庁内のワーキンググループを設置するなど、見直しに向けた準備を進めていきます。「未来創生ビジョン」の改訂版については、令和9年度末に公表を予定しています。

(2)の「魅力化・特色化の推進」については、探究的な学びのさらなる充実に向けて、地域や企業と学校とを繋ぎ、連携を促進する役割を担う地域コーディネーターの確保と活用について検討していきます。また、路線の廃止や減便等、地域の交通事情を踏まえ、高校生の通学支援の方策として、コミュニティバスとして併用する形でのスクールバスの導入が実現可能であるかについて、市町村とともに検討したいと考えています。

(3)の「入学者選抜の工夫・改善」については、生徒の受験機会の拡大の観点から、令和9年度入試から「自己推薦入学者選抜」を導入するよう、その内容について検討していきます。この詳細は、報告第4号でします。

(4)については、報告第1号で説明しました、小中学生対象の「おおいたくらふとりんく」の開催や、夏以降の体験入学を前に、全ての県立高校を紹介する「県立高校ナビ」の中学3年生への配布などに取り組んでいきます。

(5)の遠隔教育については、今年度スタートした配信センター方式による授業について、成果や課題を検証しながら、配信校、配信教科の拡大について検討します。また、普通科の2・3年生を対象とした夏季休業中の特別講座の充実などに取り組んでいきます。

今後とも、中学生から選ばれる魅力ある県立高校づくりに向けて、時代の流れを注視しつつ、地域等と密に連携して、必要な取組を進めていきます。

なお、この資料の4ページから9ページは、先ほど説明した今後の方向性について、詳細を記載した本文となります。この資料を合わせて、県教育委員会HPに公開する予定です。

以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

先日、中学校の高校説明会に参加してきました。県立4校、私立4校の校長先生や教頭先生が説明されました。私が移住してから13年になりますが、今まで行った説明会の中で一番良かったです。プレゼンがとても上手で、学校の魅力が中学生に響くような伝え方がびっくりするくらい上手になっていました。子どもたちに、こんな学校もあるんだ、こんな選択ができるんだということがよく伝わりました。2時間目から4時間目まであきることなく、質問をしっかりとされていて、先生方の気持ちも途切れることなく、進めていました。指導の成果だと思います。

各学校に指示があったと思いますが、それにしても中学生の選択の幅が広がったのではないかと思います。特色や受入れ状況がわかり、特に「通学が難しいかもしれないが、行けばあなたたちの夢が叶うよ」ということを、それぞれの学校の先生たちが自信を持って、話をされていました。これだと子どもたちが不安なく通えると思いました。すばらしかったです。全体的に褒めてあげてください。

(小野高校教育課長)

是非、学校にも伝えていきたいと思います。

(高橋委員)

地域と高校の連携が鍵になってくると思います。定員割れも進んでいますが、実際に市町村の担当者と話しをして、深く話をしていけないといけないと思います。

例えば数年後、生徒数が少なくなったときに、色々な問題が出ると思います。コミュニティバスの利用など、市町村が持っているものを利用させていただいて、市町村も子どもたちの育成に協力するような体制づくりを進めていけないといけません。学校運営も、私立高校も無償化になっていきますから、特色ある学校づくりを地域と考えていかななくてはならないと思います。

是非、地域を巻き込んで、取り組んでもらいたいです。

(岩武委員)

質問です。これから、第一志願と第二志願を考えていくことになりますが、例えば、全県一区をベースにして、県北の中学生が、第一志願は大分市内の学校にし、第二志願は自分の校区の学校にしたとき、この場合は優先順位がつきますか。第一志願が合格したら、第二志願は合格しないのか、両方とも合格するのですか。

(山田教育長)

入試制度はこの後、説明がありますので、先に報告第4号の説明をしてもらい、まとめて質問を受けましょう。

④ 高校入試改革について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

では、報告第4号「高校入試改革について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「高校入試改革について」報告します。10ページをご覧ください。

今後の高校入学者選抜の報告について、2点あります。

1点目は、令和8年度入試より、第二次入学者選抜を廃止し、第一次入学者選抜において複数校志願制度を導入します。その概要については、左の枠内をご覧ください。第二志願校は、第一志願校の合格発表後に、欠員のあった学校・学科を対象に実施します。第二志願校の選抜については、一次入試の得点及び調査書点を用いて選抜を行うこととします。第二志願校においては、普通科の出願について、出身中学校の所在市町村により、出願可能な高校に制限を設けます。中学校の所在市町村により出願可能な普通科については、下段の表にまとめてありますのでご覧ください。なお、専門学科、総合学科への出願については、制限を設けず、県内全ての高校への出願を可能とします。また、第二志願校への出願に際しては、入学考査料は必要ありません。

次に、右に記載しています複数校志願制度の流れをご覧ください。第二志願校については、第一志願校合格発表後に出願を行います。なお、第二志願校の合格発表については、すでに発表している第二次入学者選抜の合格発表よりも一日早く発表することとしています。以上が、複数校志願制度の概要となります。

次の11ページをご覧ください。

2点目は、令和9年度入試より、現行の推薦入学者選抜に加え、自己推薦入学者選抜を導入します。令和8年度入試より、推薦入試については、推薦要件の【活動指定あり】、【活動指定なし】、【志望学科】の3つの区分を設け、いずれの推薦要件で募集するかは学校ごとに定めることとしております。令和9年度からは、推薦要件の【活動指定あり】に係る選抜を指定活動推薦入学者選抜とし、その他の2つの区分及び現行の推薦入試Aを自己推薦入学者選抜として実施します。

上段枠の下の実施概要をご覧ください。指定活動推薦入学者選抜についてはこれまでどおり中学校長からの推薦を受けた者を対象とし、自己推薦入学者選抜については中学校長からの推薦を必要とせず、各高校が定めた出願要件を満たした者が対象となります。また、指定活動推薦入学者選抜は各高校が実施の有無を判断し、自己推薦入学者選抜については全ての学校及び学科にて実施します。

これらの選抜の資料等については、下段の枠内をご覧ください。自己推薦入学者選抜については、推薦書ではなく受験者本人が記載する志望理由書を課すこと

としています。

この自己推薦入学者選抜の詳細については、次年度当初に公表します。

今回の変更点を含め、令和8年度高校入試について中学校、中学生やその保護者への周知・徹底を図り、適正な入試の実施に努めていきます。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(岩武委員)

10ページですが、3月13日に合格発表があり、その後、欠員が出たところに出願をすることになります。例えば、大分市内の第一志願に合格したときに、そもそも大分市内の第一志願校と地域の第二志願校はどちらでも良かったという受験生が、地域の第二志願校に出願するということは可能ですか。つまり、両方合格して、どちらか選ぶということは可能ですか。

(小野高校教育課長)

例えば、第一志願校で合格しても辞退することになりますので、欠員になります。

(山田教育長)

それを認めると、集計作業が混乱すると思います。

(小野高校教育課長)

前提として、第一志願が優先となります。

(岩武委員)

では、それを謳っておくということですね。第一志願校に合格したら、それで決まりということですね。

(小野高校教育課長)

最初の質問でいくと、第一志願で合格した人を押し出すことにもなりますので、やはり第一志願が優先になります。

(岩武委員)

合格発表から出願までに期間がないので難しいですが、本当はこの間に入学手続を入れておく方が確実だと思います。この日程で難しいということであれば、その条件も実施要項に入れておいた方がよいと思います。第一志願校に合格して私立学校に行くという生徒もいると思います。県立は第一志願を断ったら、第二志願には出願できないという話になると思います。

(小野高校教育課長)

併願はできないということになります。

(高橋委員)

大学入試とは違いますから、そうするしかないと思います。大学は複数校の中から選べますから。

(岩武委員)

それを可能にするのかどうかということを質問しました。そこまで可能にした方が、選択の幅は広がると思いますが、制度が複雑になり、短期間の中では難しいので、第一志願に合格したらその先は出願できないということによろしいですか。

(小野高校教育課長)

第一志願で合格を確定した後、欠員があれば第二志願の実施校が決まることになります。

(岩武委員)

個人で考えると、第一志願で合格したら、県立の受験はそこで終わりということですね。

(山田教育長)

今のことは、正直なところ念頭になかったことです。岩武委員が言ったように、この短期間で合格判定をするため、ミスが許されません。特に初年度ですので、慎重を期そうと思っています。

しかし、この制度でこれからずっと継続していくというわけではなく、実施してみても問題があれば、次年度以降、日程も含めて柔軟に対応していきたいと思います。今の件は、再度検討してみてください。

(岩武委員)

今後の検討課題にしてください。

(山田教育長)

他にありませんか。

(鈴木委員)

中学校もざわざわしている状態ですので、できるだけ早めに通知をしてあげてください。あまり今までのやり方とは変わっていませんが、名称が変わるだけでわからないとなることがあります。初めての子どもの受験の時や上の子どもの時と、何が変わったかわからないということもあると思います。

受験生が第二志願ばかりに頼らず、第一志願に合格するよう勉強に取り組むことができるように、しっかりと周知をお願いします。

(小野高校教育課長)

内容が大きく変わるわけではありませんので、どこが同じでどこが違うのかということが伝わるように努めていきます。

(山田教育長)

最後にその他、何かありますか。

(山田教育長)

それでは、これで令和7年度第7回教育委員会会議を閉会します。
ありがとうございました。